

令和4年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(戸祭地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

令和4年度 第1回  
まちづくり懇談会《戸祭地区》実施結果報告書

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《戸祭地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和4年6月7日（火）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 戸祭小学校多目的室
- 3 参加者数 30人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，北市民活動センター所長，技術監理課長，広報広聴課長
- 5 懇談内容
  - (1) 地域代表あいさつ 戸祭地区まちづくり協議会 会長
  - (2) 市長あいさつ
  - (3) 地域代表意見

No.	テーマ	所管課
1	宇都宮市の観光PRについて	人口対策・移住定住推進室， 広報広聴課 観光交流課 都市魅力創造課
2	回覧板による伝達手段の検討について	みんなでまちづくり課 広報広聴課
3	ごみ問題について	ごみ減量課

(4) 自由討議

No.	要望	所管課
1	当地区の住居表示について	市民課
2	制服リサイクルの推進について	ごみ減量課 学校教育課
3	小幡・清住土地区画整理事業について	西部・北部区画整理事業課

(5) 来賓あいさつ

市議会議員 熊本 和夫 氏  
市議会議員 塚田 典功 氏

(6) 市長謝辞

## ■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	宇都宮市の観光PRについて
-----	---------------

私は宇都宮市が大好きなまちである。しかし、この宇都宮という地名が餃子とバスケットに負けているようでは、宇都宮市もいつの日か徐々に他市町村との競争に負けてしまう気がするので、宇都宮市の観光PRについて質問したいと思う。

私はこの宇都宮で昭和の世代を遊び・学び・育った人間であり、大好きな宇都宮をもっともっと全国的に知って頂きたいという思いの質問である。

昭和生まれの者にとって、カタカナ・アルファベットの多い時代になってしまい、非常に戸惑うことがたくさんある。特にスマートフォンやタブレットを、すでに幼稚園の子どもが使っている時代になっているが、高齢者はなかなか使いこなせない。SNSについても「なんだそれは」ということで、子どもに逆に聞いている。ただ、その手段が素晴らしい情報伝達手段という事を最近になって良くわかるようになった。市役所から災害情報などがスマートフォンに届くと、これは便利で早いということを感じている。

あらゆる情報が迅速に広範囲に伝わる時代に、宇都宮市の魅力についてSNSを活用して、もっと全国発信してはどうかと思い、2点質問させていただく。

1つ目は、魅力を全国発信する広報手段についてである。

先ほど申し上げたように、SNSという手段のほかに、宇都宮市で行っている「住めば愉快だ・・・」のロゴがたくさんあるという事を報道で知ったが、私達市民としては、宇都宮はどうしても今までの固定観念として餃子と大谷石となっている。宇都宮餃子あるいは大谷石は、全国的に知られてはいるが、その他にも宇都宮市には色々なキャッチフレーズがたくさんある。「自転車のまち宇都宮」や「ジャズのまち宇都宮」、「妖精の住むまち宇都宮」、「美味しい水の宇都宮」など色々言われているが、市民の立場からすると、「何が妖精だ。どこのことなんだ。」、「自転車と言うが、自転車がなくて非常に危険なまちだ。」とも言われている。これで自転車のまちとしてPRになるのか、というような疑問を市民として感じることもある。

それぞれのキャッチフレーズに応じて市の担当部局では、懸命に頑張っており、色々な予算を確保し、議論の末キャッチフレーズが生まれたと思われるが、それらが果たして費用対効果として市民に知れ渡っているのだろうか。

また、宇都宮市には、宇都宮音頭という踊り・歌がある。市役所に行くと宇都宮の歌が流れていた。これは私が小学生の頃に教わった歌であり、非常に懐かしく、いつも市役所に行くとつい口ずさんでしまうメロディが流れている。良い事だとは思いますが、もう一方の宇都宮音頭について、当時小学校で教わり、踊った経験がある。宇都宮音頭はどこで消えたのかわからないが、好きな人は盆踊りなどの時に多少披露していると思う。今更、花笠踊りや阿波踊りに対抗しようというわけではないが、宇都宮音頭がもっと流れていいのではないかと。宇都宮音頭には宇都宮の名所がたくさん盛り込まれている。二荒山の石段の事

や大谷など全部歌われている。このPRも復活させたらいいのではないか。

2つ目は、観光PRについてである。宇都宮に来てくれる観光客への対応や利便性において、宇都宮で餃子を食べようと思い、新幹線や東武電車に乗って宇都宮に来ると、駅前に餃子店がいっぱいある。そこで宇都宮の名物餃子を食べた後、次にどこかに行こうとならず、そこで帰ってしまい、餃子店が儲かるだけの話で終わっている。宇都宮に来た人達をもっと足止めさせて、宇都宮の観光地を回ってもらうような、観光客をつなぎ留める施策が必要だと思う。例えばパークアンドライドとして、車で来た人にはどこかの駐車場を無料にし、そこから公共交通のバスに乗り周遊してもらう、あるいはその周遊箇所をもっと駅前に華々しくPRするなどが必要ではないか。ぜひそれらについて検討してほしい。

全国市町村の魅力度ランキングで、栃木県は北関東3県で毎年47位争いをしており、47位になるかどうか話題になっているとともに、宇都宮の市町村別ランキングでもほぼ40位以下、50位にも入っていない。もっと頑張るべきである。せめてベスト50位に入るまちになっていくように、努力してほしい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：人口対策・移住定住推進室，広報広聴課，観光交流課，都市魅力創造課</b>
------------	---

【市長】

魅力度ランキングについては、全国1,000以上の市区町村の中で常に上位を確保することは難しいが、子育てや住みよさなどのその他の各種ランキングにおいては、中核市や50万人以上の都市の中で常に上位を獲得しているものもあり、引き続き取り組んでまいりたい。

また、市民の皆さんに対する世論調査の結果では、宇都宮市を好きだと思ふ市民の割合は90パーセントを超えている。他の中核市で実施している同様の調査結果を見ると、平均78%位であり、「宇都宮の市民の皆さんは自分の住むまちに愛着を持っている」ということがわかると思うが、恥ずかしがり屋の市民性であるため、それをどんどん外に発信していける、人に自慢できるような事がこれから必要になってくると思う。

その中でMICE誘致であるが、駅東のコンベンションセンターについては、造ったから良いとするのではなく、そこで様々な会議を誘致する予定である。その会議もただ来てもらうだけではなく、宇都宮の観光地あるいは県内の観光地までフォローし、バスの手配など全てをカバーし、地元の企業の視察などもセットにする。例えば、お隣の上三川に行って日産の工場を見学したり、芳賀町のホンダの研究所あるいは宇都宮の清原工業団地のカルビーなどを見て頂くようなものをセットにし、どこの都市もできないコンベンションの形態としてMICEを作り上げ、人を呼び込んでいくという考えでスタートしている。

また、費用対効果については、様々な広報を行っているが、例えば、ジャパンカップサイクルロードレースは、2年間中止の期間があったが、直近の20

19年の数字になるが、2日間で来て頂いた方は13万2千人、経済効果は28億円であった。このようなことをしっかり広報し、宇都宮市に来てもらい、実際にお金を使って頂く。さらに、今年はPR方法としてテレビCMなども導入をしてまいりたいと考えている。

さらに、マスコミの露出度については、餃子だけでなく宇都宮市の様々な魅力について、令和3年度にマスコミが取り上げた件数が911件、それをテレビコマースベースの広告に換算すると約14億円となっている。

このようなことがまだまだ不足しているので、地道に取り組んでいかなければならないと思っている。

次に、宇都宮音頭については、宇都宮の歌がレコードのA面であり、B面が宇都宮音頭となっており、宇都宮市政60周年の記念に作られたものである。宇都宮の歌は作曲が古賀政男さん、作詞が青い山脈を作った西条八十さんであり、素晴らしい歌である。今でも小学校・中学校で歌ってもらっている。そして、B面の宇都宮音頭、これは船村徹さんが作曲をした。私も小さい頃は町内会の盆踊りで踊った覚えがあり、日光和楽踊りと一緒に踊っていたが、いつの間にか私の地元でも宇都宮音頭はなくなってしまった。これについては、連合自治会の皆さんにもお話をし、PRをしてまいりたいと思う。

また、大谷と餃子以外のPRのご意見については、観光客の皆様は、例えば大谷とろまんちっく村、そこに餃子をセットにするといったことや、大谷資料館と大谷観音の入場券をセットにした周遊バスなど、観光客の方が餃子を食べに来て終わりとなるだけではなく、観光地まで足を延ばしてさらなる宇都宮の魅力を感じてもらえるような施策を行っていく。これからも観光客を呼び込む努力をしていく。

## ■地域代表意見2（要旨）

テーマ	回覧板による伝達手段の検討について
-----	-------------------

自治会長の経験からの質問である。

自治会には色々な回覧板が回ってくる。直接、自治会長に郵送されてくるもの、コミュニティセンターを通じて配布されるものなど、回覧板も相当の数がある。自治会連合会で色々調整している事は承知しているが、受け取った側としては、昔の回覧板の状況と違うので、伝達手段を検討する必要があると思う。

昔、ラジオから「トントンとんがらりと隣組」という軽快なメロディが流れてきて、その回覧板の良さ「知らせられたり知らせたり」という、のどかな一例が国民的な歌になっていた。しかし、今は高層マンションや高層建築、電子ロックの集合住宅など、構造物としてのマイナス面、それに加え独居高齢者や身体障がい者の方、単身居住のアパートなど様々な居住形態がある。このような中、回覧板を回すことが自治会としては非常に苦勞する。それぞれ自治会で工夫をして回覧していると思うが、回覧板の良さや回す側の手段が何かないかと悩んでいる。回覧物のあり方としてどのような回覧物が良いのかと時々疑問

に思う。果たしてこれは回覧に適しているのか、必要あるのかというものまでも送られてくることがある。

そのため、ぜひ回覧板のあり方について市の考え方を教えていただければと思う。

<b>回 答</b>	<b>所管課： みんなでまちづくり課, 広報広聴課</b>
------------	-------------------------------

【市長】

回覧板は隣の人への安否確認ができたり、あるいは人が出入りする事により犯罪の抑止にも繋がるということから、かつては大変評価が高かったものであった。しかし、ご指摘のとおり「回覧板の回数が多くてまいってしまう。」「コロナ禍において人と接触するよりも、非接触型の生活を求められているのに。」という意見もいただく。

特に、「回覧板の回数が多い。」「何でもかんでも回覧板に頼り過ぎではないか。特に行政はそういう傾向にある。」といった御指摘を十数年前に頂いたので、自治会連合会と「なるべく不要なものは入れない。そして回数あるいは頻度も決める。いつ入れるのかも決める。いつでも回覧するというやり方をやめようじゃないか。」という協議をした。回覧物は減ってきてはいるが、コロナ禍の今日においては少し多いと感じられていると思う。これからも回数を更に減らす工夫、また1回当たりの件数や資料の枚数も減らす努力などを行っていきたいと思う。

ここで見て頂きたいものがある。

【御幸町北自治会の事例をスクリーンで紹介】

自治会回覧の内容をホームページに掲載している事例である。「魅力ある自治会づくり支援事業」という事業があり、この事業の補助金を活用して、アプリを使った回覧板の電子化に取り組んでいる自治会もある。WEBを活用して行政、学校、その他の機関からの情報を、データで提供している。このような回覧のやり方を御幸町北自治会が行っている。

近い将来このように移行することもあるかと思うので、紙資料とWEBによる回覧なども活用し、うまく工夫することがこれから求められていると思う。

今後も自治会連合会と連携しながら、回覧回数や枚数を減らしていく努力とともに、回覧の電子化にも徐々に取り組んでいく。特にやってみたいという単位自治会があれば、ぜひ市民活動センターに相談して頂きたい。

### ■地域代表意見3（要旨）

<b>テーマ</b>	<b>ごみ問題について</b>
------------	-----------------

私はごみ問題についてお願いがある。

クリーンパーク茂原の火災に伴い、ごみを減量しましょうという活動を自治

会でも回覧板や班長を介して指導があり、何とか減量の努力をしている状況の中、市としても色々な広報をされていると思う。折り込みチラシなどを目にすることが多いが、これからまだまだ復旧まで時間が掛かるため、広報活動を今後も一生懸命やってほしいと思う。

焼却ごみの中には資源物が多く入っており、特に紙類が焼却ごみの中に相当入っている。これについて、自治会に入っている人達に対しては、色々な方法で指導し、全部は減らせないが、かなり減ってきていると思う。しかし、自治会に入っていない人には、分別の仕方や縛り方などの広報がまだ不足している。そこまで自治会で指導してくれと言われると、手が回らなくなるので、市に何とかお願いしたいと思っている。

次に、資源物の関係について、現在子ども会で資源物回収や廃品回収を行っている。恐らく宇都宮市は栃木県でトップクラスである報奨金を1キロ当たり5円出していると認識している。他と比べると本当に優遇されていると思う。しかし、地区の育成会の方に聞くと、「昔は回収業者が売ったお金の中から、いくらか回収業者がくれることがあったが、現在そのような業者の数がどんどん減ってしまい、市の報奨金のみしか入ってこない。」という話が出ている。他より高いのはわかっているが、もう少し報償金を上げてほしいというお願いである。

また、資源物回収業を行っている業者の人が高齢になり、「もうできない。」と回収できないため、新しい業者を探そうとなったが、育成会で相当苦労した。聞いたところ、「なかなかそれを受けるのは大変だ。」というのが現状のようである。数年前から市で回収業者に補助金を出しているが、廃品回収は土曜と日曜が多く、平日はほとんどないと思う。業者からは「土日の作業であり、古紙は今相当安く、人件費を給料として払うと、資源物回収事業はなかなか厳しいところがある。」という話を聞いている。そのため、できれば回収業者に対しての補助金額についても見直してもらえると、頼む側は見つけやすくなるのではないかと思うので、ぜひ検討してほしい。

最後にごみステーションの設置について、色々な事情で「もうここのごみステーションはやめてくれ。」という住民の声が上がり、新しいステーションを見つけることは、なかなか難しい現状がある。実は昨年、苦肉の策で道路のデッドスペースがあったため、そこをごみステーションにしようという話があった。デッドスペースの道路ではあったが、市道のため市の使用許可やごみステーションの設置の申請など別々の課で申請しなければならなかった。また、そのままネットを被せて道路を塞ぐことはできないため、折り畳み式のステーションを設置した。その手続きの際、市役所で道路にこのようなものを置いて良いか、ここをごみステーションにして良いかなど、道路管理課とごみ減量課にそれぞれ3回程足を運んだ。今はごみステーションになったが、これらの申請を例えばごみ減量課のみで済ませられればもっと簡単にできると思うので、ぜひ検討してほしい。

今まではごみステーションでネットだけを使っていたが、折り畳み式を使い始めるとカラスの悪戯が激減した。ただ、ネットでは1枚当たり3,500円～4,000円程であるが、折り畳み式では1個17,000円～20,000円程する。全部自治会の負担で取り付けたが、それらについても補助が出せるようであれば、ぜひ検討してほしい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：ごみ減量課</b>
------------	------------------

【市長】

まず、クリーンパーク茂原の火災の原因は、(現在調査中ではあるが)ごみを一時溜めているごみのピットの中に、電子ライターやスプレー缶などが混ざっていることがあり、それらが発火したことなどにより火災になってしまった可能性が高い。これまでは消火する事ができたものの、恐らく相当下に入っていたため、中で気付かないうちに燃え続け、気が付いた時には消すことが難しい大きな火になっていたという状況である。ごみを収集するパッカー車の中で、かつてスプレー缶が爆発して火災になった事もあった。現在もご迷惑をお掛けしているの、市民の皆さんには分別の徹底とごみの減量をお願いしている。現在、他の自治体の日光や佐野などにごみの焼却をお願いしている状況であり、ご不便をお掛けしているが、皆様方にもぜひお力を頂くと共に、自治会長をはじめリサイクル推進委員の皆様方にも、大変ご協力を頂いていることに対して感謝を申し上げる。

まず、自治会加入については、自治会連合会とも一緒に取り組んでいる大きな課題であり、これからも行政として建築確認の申請時や転居届け出の時にも徹底して加入促進を行っていききたいと思う。

そのような中、分別の周知については、市のホームページや広報紙、分別講習会、さらにはごみ分別アプリ「さんあ〜る」、市の公式ライン「教えてミヤリー」のほか、もったいない運動市民会議の皆さんと連携してスーパー等へののぼり旗の設置や、来店者へ直接呼び掛けなどの取組を行っているところである。

また、自治会未加入者世帯への周知についても、不動産管理会社を通して集合住宅入居者向けのチラシ配布や大学・専門学校等と連携した学生の皆さんへのチラシ配布やお願い、さらに国際交流プラザと連携し、宇都宮に住んでいる外国人の方に対してSNSを活用した情報発信を行っており、英語と中国語だけでなくベトナム語・ネパール語など8か国語の言語を使った周知を行っている。今後も、分別チラシの個別ポスティングなどを強化し、分別の周知に取り組んでいく。

さらに、毎月の新聞折り込みチラシでごみ削減の周知や分別のお願いをこれまで今年だけで4回行っているが、これも継続していく。

11月には何とかクリーンパーク茂原の修繕も終わり、元のように戻せるのではないと思うが、引き続きご協力をお願いする。

このような中、生ごみ処理機について補助金があるが、電動式であれば6万



円上限の9割補助，すなわち，6万円の生ごみ処理機を6千円の負担で購入できる。非電動式も1万円上限の補助金があるので，ぜひご検討頂きたい。私も利用しているが，夜入れておけば，次の朝にはカラカラに生ごみが乾燥していて，全く臭いもしない。臭いがしないのでカラスも来ない。とても良いものだと思う。今までは5割補助だったが，11月のクリーンパーク茂原の修繕が終わるまでの間，この9割補助を続けていくので，ご参考にして頂ければと思う。

次に，資源物の集団回収については，地域コミュニティーの活性化を図る上でも，地域の皆さんに資源物を回収して頂くことは本当にありがたい。集団回収については，子供会等の実施団体に対して報償金を支給している。

また，回収事業者の補助金については，ご指摘のとおり，市で事業者に対しても補助金を出している。近年の資源物の買取価格の低迷を受けて事業者の負担を軽減するために行っており，令和3年度から再び補助も開始したところである。引き続き報償金や補助金など，時代に即した対応として，事業者が回収できない，したくない，あるいは金額が上がらない，というようなことに対して，しっかり対応してまいりたいと思う。

最後になるが，道路使用許可の手続きについては，ごみステーションの設置にあたり，市は道路管理者として，一般交通に支障を及ぼさないように設置物等を把握することが道路の安全管理上重要であるので，道路使用届の提出をお願いしているところである。この手続きの負担軽減を図るため，今年度から電子申請による届けも開始したところであるので，ぜひご活用頂くとともに，簡素化に向けてはこれからもしっかり対応をしていく。

また，カラス対策としての固定式・折り畳み式の箱型ごみステーションへの補助については，設置スペースや収納スペースの有無など，地域によって設置出来る所と出来ない所があり，補助対象を広げることが難しいため，ネットのみの補助対象としているところであり，ご理解を頂きたい。

## ■自由討議（要旨）

### 発言 1 当地区の住居表示について

昭和30年代，住居表示に関する法律ができ，全国で住居表示が普及した。

例えば「宇都宮市旭1丁目1番5号」は宇都宮市役所の住所である。

ところが，戸祭3丁目〇番〇号は私の住所であるが，同じ住所が13件ある。これは，行き止まりの脇道があり，脇道に沿って建物が並んでいるからである。付番にあたり道路に沿って右回りで1，2，3，4，5，6と付けるはずだが，行き止まりの道であるため，ここは3—〇—〇，隣の行き止まりの脇道は3—△—△と付いている。

幸い住民同士皆仲が良いため，もし郵便物が別の所に入っても「これ入っていましたよ。」と持っていく，何らトラブルは起きていないが，転入者がいた場合には非常に困る。

ちなみに、数年前に私の娘夫婦が同居しており、タイミングよく斜め後ろに建売が売り出されたので、購入して新居に引っ越した。市役所で転居手続きをしたところ、「3-0-0から3-0-0では転居ではない。」と言われ、結局世帯分離にされてしまった。このように不便なところがある。

住居表示について解消する方法等があったら、教えて頂きたい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：市民課</b>
------------	----------------

【市長】

住居表示について、今までは、住所が重複してしまうといった問題のトラブルが全国至る所であったことが報告されていた。

本市としては、昨年、令和3年4月1日から枝番号をつけることができるようになった。例えば戸祭3丁目10番1号という住所がいくつもある場合には、末尾の1号の次部分に枝番号が1から順に付くようになったため、重複することがなくなった。

枝番号付番の希望については、申請方式となっているので、必要であれば申請をしてほしい。付番後は運転免許証など様々な住所の変更が必要になるので、それらの手続きはご自身でやっていただくことになるが、希望者については、ぜひ活用してほしい。

<b>発 言 2</b>	<b>制服リサイクルの推進について</b>
--------------	-----------------------

本日は星が丘中学校制服リサイクルバンクを代表して、お話をさせて頂きたいと思う。

星が丘中学校制服リサイクルバンクとはその名の通り、中学校を卒業し、着なくなった制服を回収し、それを必要な方に再利用してもらおうとする活動である。

3年間しか着ない制服であるが、高額なものとして購入したにも関わらず、3年間で着なくなってしまうのは、あまりにももったいないということで、私達民生委員をはじめ地域のまちづくり協議会や自治会、そして戸祭地域コミュニティセンターの人達と実行委員会を立ち上げた。

そして、星が丘中学校をはじめ、そこに通う3つの小学校（戸祭小学校・昭和小学校・上戸祭小学校）の学校関係者とそれぞれの地域の自治会の人達にも回覧の依頼などを行い、地域と学校が協力し合い、この会が立ちあがった。平成30年に立ち上げ、年2回の展示譲渡会で制服を再利用することになっている。

私自身も制服が高いことや、3年で着なくなってしまうのはもったいないなど漠然とした思いで始まったものである。ただ、実際活動してみると、制服を一揃い買うために14～15万円掛かり、私自身の子どもは女の子だったので、全然気が付かなかったが、男の子ではどうしてもサイズが合わなくなったり、汚れてしまって使えなくなり、買い替えが必要ということに気付いた。上下で

4万5千円掛かる。仮に、ズボンだけでも1万5千～1万6千円する。さらに身長が伸びて1年程で着られなくなってしまうと、3年間でどれ程制服にお金が掛かるのかと驚いた次第である。

そのため、私達のこの取組は、宇都宮市でも推奨している3R活動である「リデュース・リユース・リサイクル」の取組に、とても適っている活動ではないかと自負している。

最近では、民間事業者やNPO法人が制服を買い取り、それを販売するという活動をしていることも存じ上げているが、私達はもったいない運動にも関わってやっていたり、全く利益を求めずボランティアで行い、地域と学校が協力してやっているととても良い取組ではないかと思っている。

先程、市長にも全国に誇れる宇都宮の取組ということがあったが、その取組の1つに、この私達の活動を考えて頂き、これをきっかけに他の地域でもこのような活動を望んでいるところに知ってもらい、他の地域にも広めてもらえるようなきっかけにして頂けたら良いなと思っている。

私達の取組は、地域にも環境にも優しく、そして懐にも優しい活動だと思っているので、ぜひ他の地域にも広めて頂けたらと思う。

<b>回 答</b>	<b>所管課： 学校教育課， ごみ減量課</b>
------------	--------------------------

【市長】

丁寧にご説明して頂き、ありがたい。

私は陽南中学校出身だが、ちょうど私の前の年から制服が詰襟からブレザーになった。それが大変擦れやすく、また成長するとすぐに短くなったりして、多くの男子が卒業するまでに1回は買い替えることがあった。そのため、親たちはほとんど下の学年に回したりしていたことを覚えているが、それは一部のみであった。

先ほどの活動が効率良くでき、紹介いただいたような取組ができれば、広がりを見せる事ができると思う。今の時代には良い取組だと思う。他の中学校でも取り組んでいるが、保護者が中心になっていたり、あるいは魅力協議会が中心になっていたり、色々分かれている。

戸祭地区のように地域ぐるみでやっている所はないので、一つの模範的な例として、他の学校にも市の方からご案内をさせて頂き、上手く広がっていくこと、そして一つの簡単な仕組みが出来上がると誰でも取り組みやすいと思われるので、お話を更に聞かせて頂き、広めていくことができるよう工夫してまいりたいと思うので、よろしく願います。

<b>発 言 3</b>	<b>小幡・清住土地区画整理事業について</b>
--------------	--------------------------

毎年国土交通省で地価価格が発表されるが、戸祭地区や昭和地区が一番地価が高く、県内で一番の住宅地区だと思うが、これはインフラ整備や市の配慮があるので良い住宅地区なのだと思う。その点は本当に感謝している。

しかし、すぐ隣の小幡・清住地区は、非常に道路は狭くて本当に困っているが、土地区画整理事業の反対運動が激しくてなかなか大変だった。

以前火事になった時、道が狭くて消防車が入れないなどの理由で亡くなってしまい、全て燃えてしまったこともあった。一時期そのような出来事があったため、小幡・清住地区も「再開発をしなくてはダメだ、土地区画整理をしなくてはダメだ。」と運動も盛り上がったが、喉元過ぎれば熱さ忘れるように、反対運動が激しくなりなかなか大変だった。

都市計画決定が廃案になってしまうのではないかと思ったこともあったが、その後計画が進むようになり本当に良かったと思っている。そこで、小幡・清住土地区画整理事業の完成の予想やコンセプトがあれば、毎日通る戸祭地区の人は関心が高いので、教えていただけるとありがたいと思う。

## 回 答 西部・北部区画整理事業課

### 【小幡・清住土地区画整理事業についてスクリーンで紹介】

土地区画整理事業については、市では現在、小幡・清住地区のほか、宇大東南部、鶴田、岡本駅西など、複数の地区で事業を進めている。

小幡・清住地区には狭隘な道路があり、緊急車両や救急車、火事があった時の消防車両が入れない状況である。また、老朽住宅の密集地となっており、安心・安全で快適な居住環境の整備を掲げて事業を展開している。

更には、土地区画整理事業により都心環状線を接続させるという目的もある。

都市の骨格となる道路網の整備は、都心環状線、その外側に内環状線が走っており、そして一番外側を外環状線、宮環と言われている3環状線を12放射状の道路が通っており、日本でも珍しい宇都宮市ならではの特徴である。

これは先人の皆さんや、増山市長達が中心市街地に大型車両を入れないという考えのもと、環状線を整備してきたところである。

今ご指摘のあった都心環状線は県庁前通り・宇都宮向田線・いちょう通り・そして材木町通りで構成されており、材木町通りと県庁前通りが接続されれば都心環状線が完成する事となり、令和7年度の供用開始を目標としている。

そして県庁前通りから北側については、清住通りのクランクになっている付近まで道路整備を行っていく計画である。

また、当事業については、地区内を29ブロックに分けて順番に建物等の集団移転を行い、ライフラインや道路などの公共施設を整備した後、建物を建築していただく作業を繰り返していき、業完了に導いてまいりたい。

また、事業の推進にあたっては、地権者の皆さまに前向きに取り組んで頂いている状況である。

事業が完成すると県庁前通りが材木町通りに接続し環状線となるので、戸祭地区をはじめ、この場所が更なる魅力を増し、住みやすいまちとなり、宇都宮の中心市街地として相応しいまちづくりに変わってまいりますので、土地区画

整理事業完成後のまちづくりについても、皆様方のご協力をお願いします。